



株式会社 新日

補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

補償ミニコミ

本社 / 〒454-0011 名古屋市中川区山王一丁目8番28号 TEL 052-331-5356 FAX 052-331-4010

URL http://www.shinnichi.co.jp E-mail:shinnichi@shinnichi.co.jp

Table with 3 columns: Branch Name, Address, Phone/Fax Numbers. Lists branches across various prefectures like Gifu, Aichi, Shizuoka, etc.



編集者

内田 貢朗

ISO9001:2008

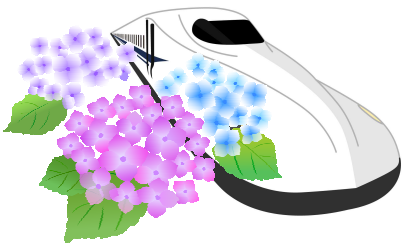
リニア新幹線事業二期期待

リニア新幹線が2027年の開通を目指して動き始め、ルートもほぼ明確になってきています。そして平成27年度の新年度に入ってからリニアに向けた関係自治体のリニア担当組織もはつきりしてきました。リニア開通まで12年の期間がありますが、今後、工事に着手する4年から5年後までに用地測量から物件調査、さらには用地交渉等を終え、用地取得をほぼ完了していなければ予定の開通には間に合わないのではなにかと想像します。だとするならば補償関連業務

調査歩掛の見直しについて

補償コンサルタント業務の受注業者として最も関心のあるのは、その受注額ですが、その基本となるのが業務項目毎の歩掛です。その業務歩掛が平成27年度の本年は整備局が発注の業務では一部見直しが行なわれました。業者として注目をしている主な歩掛の見直し変更は「土地評価」と「地盤変動影響

過去、業務の減が毎年のように続いた民主党政権時代の厳しい時とは異なり、タイトな工程であっても先の仕事に期待できることには大きな喜びを感じざるを得ません。特にリニア新幹線は東京品川から神奈川、山梨、長野、岐阜、愛知の各県を走行しますが、長野の一部(飯田)、そして岐阜及び愛知は中部支部の管内でもあり、中部の補償コンサルタント業者としては、業務の受注に大きな期待を寄せているところと見られます。12年後の2027年、東京



(M・A)

これは、一昨年に業務内容の変更があり、従来と比べて作業内容に変更がありました。変更の内容は柱の傾きの測定箇所増加や敷居等の水準測定箇所増加等、従来よりも調査すべき項目が増えたため、その結果、調査の負担が大きくなりました。こうした経緯実態にもかかわらず調査の歩掛の改正変更が無かったため、業者としても大きな負担となっており、作業だけが増えたにもかかわらず受注額は増加していません。歩掛改正が望まれていたものであります。平成27年度、この点が見直され、業者としてこの改正に対し歓迎しているところと見られます。「土地評価」「地盤変動影響調査」のいずれの



(A・M)

知多四国霊場巡り



今年になって妻の誘いで『知多四国霊場巡り』に参加することになりました。1年半をかけた88箇所を巡ります。1回に5から8寺を巡り約10kmを5、6時間かけて歩きます。参加者は夫婦、グループ、一人者と形は様々ですが、年齢は自分よりも上の人が主で約3千人が参加します。皆、リュックを背負いトレッキングウエアで身を固め、颯爽と歩いているのを見てとてもビックリしました。線香の煙に燻されながら般若心経を唱えるのですが、法事以外で唱えたことのない私は、最初は隣の人が唱えているのを聞きながら、なんとか終りまで唱えている状態でした。霊場巡りと聞いて最初は嫌々という気持ちで付いて行っていました。実は学生の頃から寺社仏閣を見て歩くのが好きだったので、久しぶりに寺の散策ができ、懐かしくなりました。それに春になり気候も良くなってきた新緑のなかを歩くのは仕事や日頃の嫌な事を忘れ、気分転換になって良いものでした。細い農道を歩いていると土手には筑紫が芽を出し、遠くでは鶯も鳴いています。道沿いの住宅の庭では綺麗な花も咲いています。野山を歩くことも多く、草木を見ながら妻にはこれは何々という名前だよと教えています。なかなか名前が出てこなかったのが、次回は植物図鑑を持って出かけようと思っています。これから暑い季節になり、寺を巡るのも大変になってきますが、朱印帳に朱印が押されていくのを楽しみに頑張ります。これが終わったら、本場四国の霊場巡りにも行ってみたいと思っています。(H・M)

かまいたし だより⑦



震災から4年

今年の3月11日で震災から4年が経過しました。当社が携わっている釜石市中央ブロック復興整備事業においても、少しずつではありますが、工事が進み始めました。今回は、現在の釜石市の復興状況について報告したいと思います。

【東部地区】

釜石市の中心市街地である只越町・大町地区では、市民文化会館の解体工事が終了し、現在は当社の提案体JVによる盛土工事（盛土の高さ約50cm）に着手しました。市民文化会館は他地区に移転し、ここは住宅地として活用する予定です。（写真①参照）



写真①

海に近い浜町・東前地区においては、海岸沿いの一種区域（非住居区域）と山側の二種区域（住居可能区域）に大きく分かれます。二種区域においては、当社で物件調査から用地交渉まで実施した約40棟の建物内、契約が成立した物件の解体工事も始まりました。（写真②参照）

この地区は、盛土の高さが約6mとなるので市民の皆様のご理解・ご協力のもと、平成29年7月の盛土工事完成のために1日でも早い工事の着手を目指し、市役所及び提案体が一丸となり事業を進めているところです。しかし、建物移転に関しては盛土工事期間中の仮



写真②

この街区以外は、現在盛土工事を随時進めながら、市として水産業者の公募を並行して行っているところです。現時点では大手缶詰工場以外に2事業者が選定されています。また魚河岸地区においては『新釜石魚市場』の設計業者も選定され、『魚のまち』の復興を進めているところです。

今回は震災から4年が経過した現在の釜石市の状況を簡単に紹介しましたが、今後も定期的に釜石の復興状況を報告したいと思います。（写真③参照）

釜石の情報は、毎週水曜日の15時からエフエム岩手さんの『釜石やっぺしFM』が放送されており、この番組はリスモウエーブやドコモFMで全国から聞くことが出来るようです。一度聞いてみて下さい。

それは釜石にお越しの際にはFMの周波数は『88.0MHz』に合わせ、釜石災害FMを是非聞いてみて下さい。（K・K）



写真③



写真④



写真⑤

「桜」

桜と言えば、長い冬を耐え、春の季節に一気に咲き誇り一斉に散っていくというイメージがありますが、ところどころ私を含め日本人はなぜ桜を好むのでしょうか。もの本によれば、桜の歴史は古く神を信仰する古代の農民は桜の木に供え物をし豊作を祈り、宴を行っていたとあります。この行為が我々に遺伝子として連綿と受け継がれ、結果日本人が桜を好む理由になったのではないかとこの説があります。

花が咲きました。釜石市近辺で桜の名所と言えば北上市にある『北上市立公園展勝地』です。HPの紹介文を抜粋します。

【悠然と流れる北上川の河畔にある北上展勝地は東北有数の桜の名所として知られ、「さくらの名所100選」「みちのく三大桜名所」に数えられています。珊瑚橋から2kmにわたる桜並木の他にも約150種の様々な桜が展勝地公園内293haに1万本あると言われ、4月中旬ごろに咲き始めるソメイヨシノから5月上旬のカスミザクラまで美しさを競います。「展勝地」は大正9（1920）年、当時の黒沢尻町長、沢藤幸治氏が設立した和賀展勝会が桜の植栽事業を行ったことに始まり、翌10年に開園しました。北上川の洪水の被害等に見舞われましたが90年近くの間、地域住民に支えられ現在のよう

な桜の名所となっていました。また「展勝地」という名前の由来は、沢藤氏の親友風見章氏（後の司法相）が事業団体の名称を展勝会と命名したことと陣ヶ丘からの眺めが素晴らしいところから、展望のきいた名勝・景勝の地という意味で名づけられました。」

（出典・北上観光コンベンション協会HPより）

また天候もすぐれなかったため、残念ながら花見は中止となりました。しかし、釜石には嬉しいニュースがあります。それは2019年に開催されるラクビーワールドカップ日本大会の開催都市に選定されたことです。スクラジウム名は「釜石鶴住居復興スタジアム」。これも釜石市民の努力、熱意があったからこそ選ばれたと思います。まだまだ釜石の復興には様々な問題がありますが、この嬉しいニュースにより復興は体面管理がうまくいっているでしょうか。とはいえ「かまいたしより」にあるように、東北ではやっとな春が来たというところで、日本列島の地域の差を感じざるを得ないところです。

私も自身も釜石市の復興事業に携わって2年になります。現在は「復興を進めなければ、2020年の成功はない！」を肝に銘じ、復興事業を今までも以上に加速させること、また個人的には精神的、肉体的に精進し、釜石市民の皆様のお役に立てればと思っています。（M・K）

また天候もすぐれなかったため、残念ながら花見は中止となりました。しかし、釜石には嬉しいニュースがあります。それは2019年に開催されるラクビーワールドカップ日本大会の開催都市に選定されたことです。スクラジウム名は「釜石鶴住居復興スタジアム」。これも釜石市民の努力、熱意があったからこそ選ばれたと思います。まだまだ釜石の復興には様々な問題がありますが、この嬉しいニュースにより復興は体面管理がうまくいっているでしょうか。とはいえ「かまいたしより」にあるように、東北ではやっとな春が来たというところで、日本列島の地域の差を感じざるを得ないところです。

リニア新幹線のプロジェクトが12年後の開通を目指し動き始めました。工事に着手する前迄に用地取得が必要で、当社の得意分野でもある補償関連業務及び測量業務等でお役に立ちたいと考えております。また現在、福島での中間貯蔵施設建設調査を行っており復興支援にも参加しています。その他、補償全般に関する業務に関して困ったことがあれば何なりとご相談下さい。今まで当社が培ってきた技術をいかに活用し、少しでも皆様のお役に立てればと考えております。よろしくお願い致します。（M・U）



後編 記集



（M・U）